

若年女子用既製和服長着のサイズと寸法

—実態調査と提案—

高部啓子・松本朋子・坂本英里香・高橋佐智子・佐藤由紀子

生活環境学科 アパレルデザイン研究室

Clothing size and measurements of Japanese costume Nagagi for young women
— The investigation into actual conditions and the proposal —

Hiroko TAKABU, Tomoko MATSUMOTO, Erika SAKAMOTO,
Sachiko TAKAHASHI and Yukiko SATO
*Apparel Design Laboratory, Department of Human Environmental Sciences,
Faculty of Human Life Sciences, Jissen Women's University*

Although many ready-made “*Yukatas* (a kind of Japanese costume *Nagagi*)” have appeared on the market, there are no official size-system for *Yukata*. So we surveyed the clothing size and measurements of ready-made “*Yukatas*” on the market and then studied the validity of their size and measurements through young women’s body measurements, and then tried to propose the better size-system for Japanese costume “*Nagagi*”. Materials were market-research data carried out in June to August, 2006, and the body measurements and the cross section data of hips from the 3-D measurements proceeded for 91 female students from 2004 to 2006.

We found that the number of clothing size on the market was very small, the clothes were made too long, and the relation among the body measurements was not considered. We also found that the necessity for expanding sizes to width through the scatter diagram of stature and hip girth, and one and half of hip girth was a good indicator for deciding the width of *Nagagi*.

Then we proposed the size-system for *Nagagi* on the basis of the above results.

Key words : yukata 浴衣, market research 市場調査, width of clothes 身幅, 3-D measurement 三次元計測, cross section of hips 腰部断面図

1. はじめに

近年、夏の花火大会やお祭りに浴衣を着ることが若者の間でファッションとして定着しつつある。それに伴い、男女を対象に若者向けの既製浴衣が市場に多く出回るようになった。市場では、和服専門メーカーだけでなく洋服のメーカーやブランドからも多くの浴衣が販売されている。若者にとって浴衣は手取りやすく気軽に着られるものという意識が高くなっている。従来の着方を踏襲するだけでなく、斬新な着方を提案する傾向も見られ、素材も和服地に限らず、洋服地を用いたものも販売されており、新しい浴衣像が創られつつあるように見える。

このように浴衣市場が拡大している一方、浴衣のサ

イズに関しては JIS の衣料サイズ¹⁾が和服を対象としていないため、公的な既製和服サイズは決められていない。そのためか、メーカーによってサイズ設定やサイズ表示がさまざまであるし、サイズ数が少ない、浴衣が大きすぎる等の声も聞かれる。

そこで本研究では、若年女子を対象として既製浴衣サイズと寸法の現状を調査して問題点を明らかにするとともに、既製和服長着（浴衣も含む着物の一般的名称）のサイズと寸法について検討することを目的とした。

2. 研究方法

研究方法としては、既製浴衣サイズの実態調査、身長と腰囲および腰部断面計測値から現行の既製浴衣サイズの問題点を明らかにし、身幅の検討から既製和服長着サイズの提案を行った。

既製浴衣サイズの実態調査は、2006年6月～8月に東京都と神奈川県にある百貨店の浴衣売り場5ヶ所で実施した市場調査である。そこで販売されている既製浴衣22ブランドのサイズと寸法表示を調査した。

計測値については、2004年～2006年に18～22歳の女子学生91名を対象に実施した三次元計測データを用いた。身長と腰囲及び三次元画像データから腰部断面図を作成し、身幅とサイズの検討を行った。

腰部断面図は臀部後突点における水平断面とし、解析ソフト「3D-Rugle」を用いて作成した。水平断面の原点は腰部横径の最大値を示す位置をX軸、左右を折半する位置をY軸とし、原点を中心に40分割した座標値を用いた(図1)。

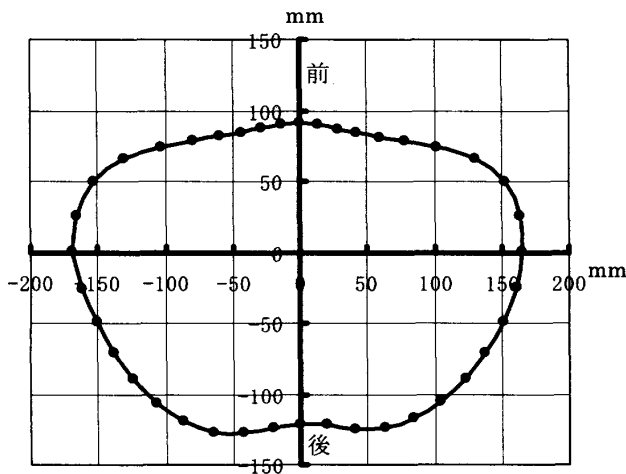


図1 腰部断面図の作成

3. 結果及び考察

3.1 既製浴衣のサイズと寸法の実態

既製浴衣のサイズについてみると、22ブランドのうち3ブランドのみが、「S、M、L」の3サイズを展開していたが、残りの19ブランドでは「M」サイズの1サイズのみであった。すなわち既製浴衣ではサイズ展開が非常に少ないことが明らかであり、市場に回っているほとんどがMサイズと考えられる。

寸法表示については、調査したすべてのブランドで「身丈・袖丈・衿丈」の3項目の出来上がり寸法が明

記されていた(図2)。このことから、寸法表示は長さが主であり、身幅など幅方向の寸法については表示されていないことが分かった。また「身丈・袖丈・衿丈」の寸法設定はブランドにより異なっていた。

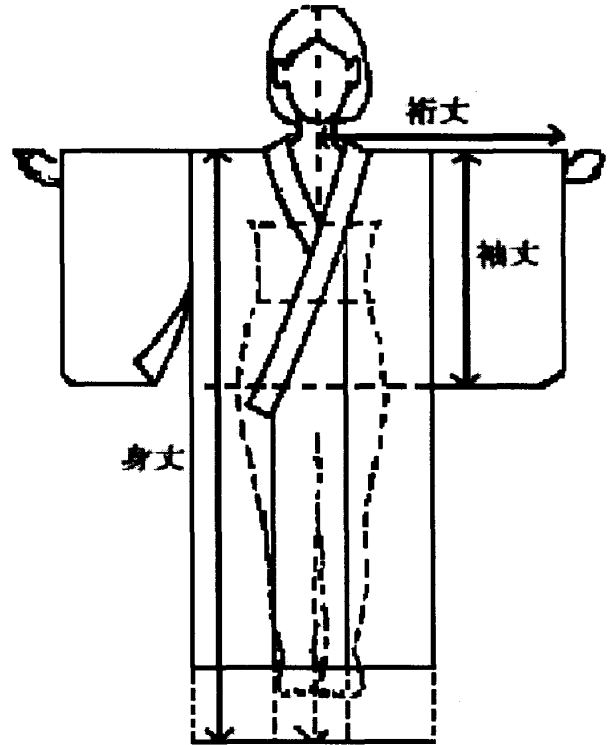


図2 身丈・衿丈・袖丈

そこで各ブランドのMサイズにおける寸法の傾向をヒストグラムにして検討した(図3)。身丈は163～165cmの範囲に分布し、約半数が163cmであり、ブランドによって2cm程度の差が見られた。一方、衿丈は86%が68cmとブランド間で同じ寸法が多かった。袖丈は64%が49cmであり、中には58cmと極端に長いものもあった。そこで身丈と袖丈・衿丈の関係を見ると、身丈が長くなっても袖丈や衿丈は変わらない傾向が明らかであった(図4)。以上のことから同じ「M」サイズといってもブランド間で設定寸法にかなりの違いがあることがわかった。

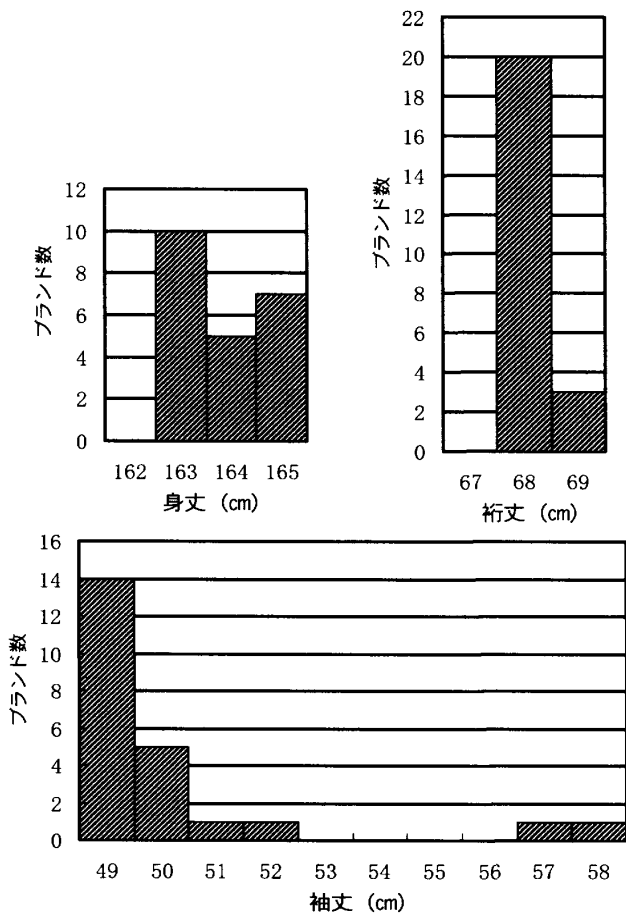


図 3 22 ブランドにおける身丈・桁丈・袖丈のヒストグラム

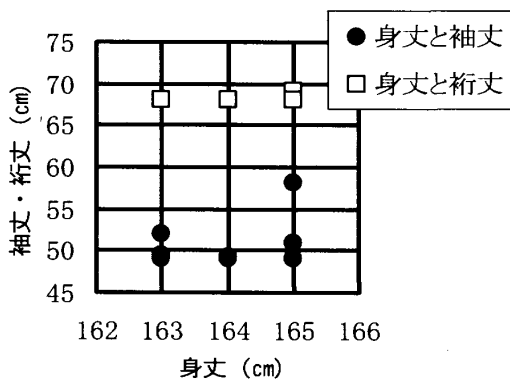


図 4 身丈と袖丈・桁丈との関連

3. 2 既製浴衣のサイズと寸法の妥当性

既製浴衣におけるサイズ数と各寸法の妥当性を身体寸法から検討した。まず、身丈と関係の深い身長について 91 例のヒストグラムを図 5 に示した。平均値は 157.9cm、標準偏差は 5.3cm、身長の最小から最大までの範囲は 29.2cm である。約 30cm の範囲に対して、身丈が 1 サイズのみに等しい現行のサイズ数は身体寸法の分布状況から見ても少なすぎるといえる。

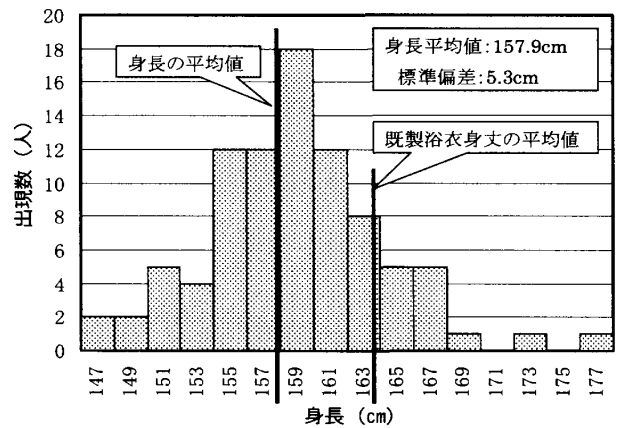


図 5 20～24 歳女子 91 例の身長ヒストグラム

一方、既製浴衣 M サイズの身丈の平均値は 163.8cm である。一般に女性用浴衣における身丈の寸法設定はお端折り分を考慮して身長と同寸とされている。今回の既製浴衣の身丈の平均値は、身長の平均値より 5.9cm も大きいことから、既製浴衣の身丈が必要以上に長くつくられていることが明らかである。身長の低い消費者にとっては着にくい寸法となっている。

また日本人の体格調査報告書²⁾によると、身長と桁丈の相関係数は 0.814 であり、身長が高くなれば桁丈も長くなることが明らかである。しかし今回の調査では身長の大小にかかわらず桁丈が一定であり、寸法設定に問題があると予測される。

次に体幹部の最大周径である腰囲と関係が深い身幅がサイズに取り入れられていないことに対する疑問から身長と腰囲の関係を散布図で検討した(図 6)。図から明らかなように、腰囲の最小値から最大値までの

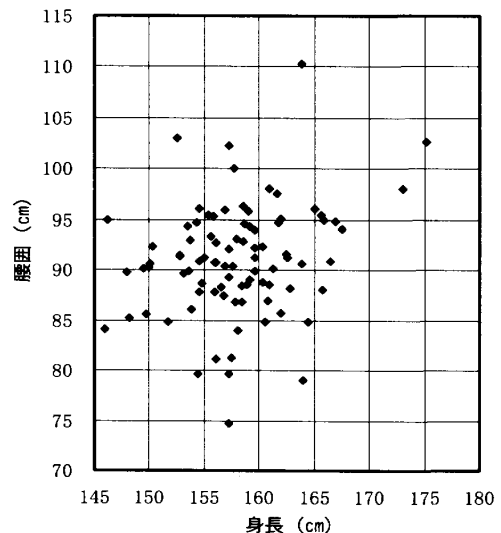


図 6 身長と腰囲の散布図

範囲は 35.6cm にも及んでおり、身長が同じであっても腰囲の分布範囲は広いことが明らかである。すなわち、着物のサイズは融通が利くといっても、身丈に対して身幅が 1 サイズでは身体への適合が難しく、着装においても困難を伴うといえる。身丈・身幅のように、丈と幅の 2 つの寸法でサイズを設定することが望ましい。

以上のことから現行の既製浴衣サイズは、身体寸法からみて、サイズ数が丈方向、幅方向ともに不足していること、身丈が長くつくられすぎていること、寸法間の関係が考えられていないことが指摘できる。

3. 3 腰部断面形状による身幅の検討

既製和服長着の寸法設定に必要と考えられる身幅について、腰部断面形状の観察から検討を試みた。長着を着用する時、上前の端は必ずしも右脇中央にくるのではなく、歩行のしやすさや正面から見たときの美しさから決められる。そこで和服長着の上前端の位置(☆印)を腰部断面形状から図 7 のように、右体側の最も側方の点(★印)から各点の折線勾配の大きく変わる点と設定してみた。

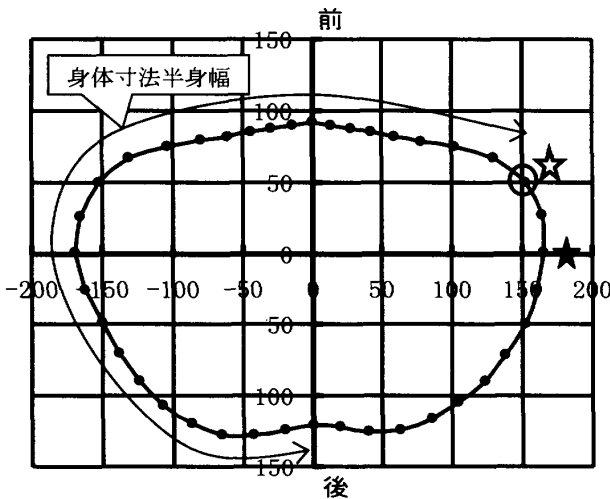


図 7 長着上前端が来る位置の設定と身体寸法半身幅

図 8 は腰部断面図における後弧長と前弧長から「2 点間距離 (図 7 における ☆印から ★印までの長さ)」を引いた長さの 2 倍を合計した長さ (以後身体寸法身幅と称す) のヒストグラムである。約 40% の学生が 123cm 前後である一方、最小値から最大値までの範囲は 50cm を超えており、身体寸法の腰囲より分布範囲が広がっている。これは身体寸法身幅が腰囲寸法だけ

でなく腰部断面形状を考慮した設定になっているから、すなわち腰部断面上の「2 点間距離」が腰部の断面形状によって異なってくるためと考えられる。そこで腰部の厚みを表す腰部横矢指数と「2 点間距離」の散布図 (図 9) を見ると、「2 点間距離」が短い群と長い群に分かれて分布している。長い群は横矢指数の大きな方に分布していることから、腰部が相対的に厚みのある体型をしていると考えられる。また「2 点間距離」は短い群が 4~6cm、長い群が 8cm 前後である。図 10 は両群の平均値により腰部断面形状の比較をしたものである。長い群は短い群に比べ、厚みがあると同時に臀部や大腿部の丸味が強い形状が観察される。このことは腰部の相対的な厚みや形状によって身幅のサイズを変えるとよいことを示しており、木野内ら³⁾も指摘している。

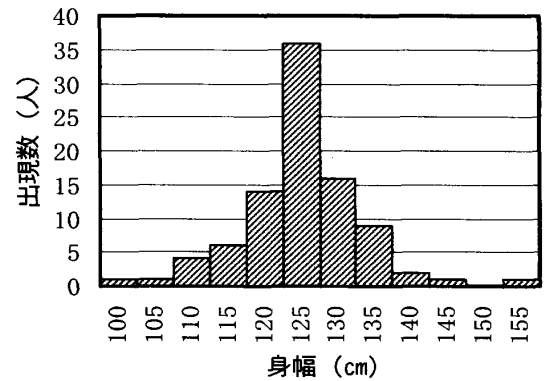


図 8 計測身幅のヒストグラム

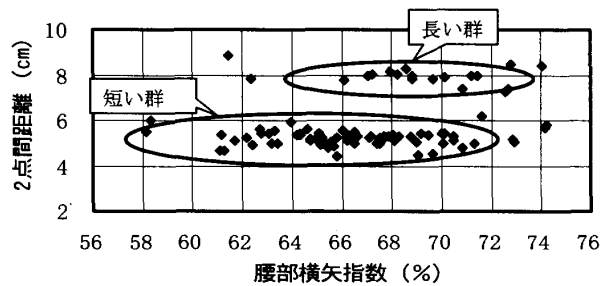


図 9 2 点間距離と腰部横矢指数の散布図

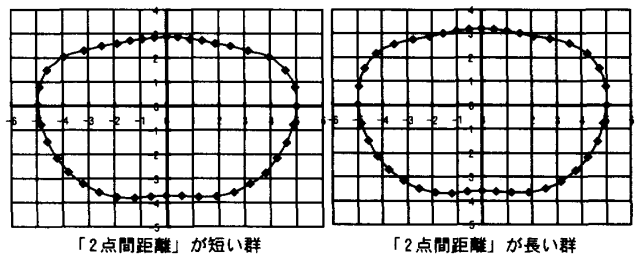


図 10 「2 点間距離」が短い群と長い群の腰部断面図の比較

次にいくつかの文献で身幅の設定を調査したところ、すべて腰囲をもとに割り出されていたが、その方法は前腰幅を「腰囲 / 2 - 8cm」として決めていくもの^{3) 4)}や、「腰囲 + ゆとり 10cm + 重なり分 36cm」として身幅を決めていくもの^{5) 6)}、後ろ幅、前幅をそれぞれ腰囲から割り出して身幅を決めていくもの^{7) 8)}、身幅を「(腰囲 × 1.5) / 2」とするもの⁹⁾、腰囲ごとに身幅寸法を一覧表に定めているもの¹⁰⁾ などさまざまであった。設定されている半身幅寸法は図 11 のように腰囲が大きくなるほどばらつきはおおきくなった。また「腰囲の 1.5 倍」の長さを図中に示すと、各種文献の身幅の中ではやや大きい方に位置していた。そこで「腰囲の 1.5 倍」の長さとの関係を散布図 (図 12) で確認したところ、「腰囲の 1.5 倍」は身体寸法身幅より約 13.5cm 程度大きいことが明らかとなった。従ってゆとりを 10cm と考えるならば、「腰囲の 1.5 倍」の長さから 90cm 前後の標準的腰囲では 3 ~ 4cm を減じた値を、98cm 以上の大きい腰囲では 4 ~ 5cm 減じた値を身幅としてもよいのではないかと考えられる。

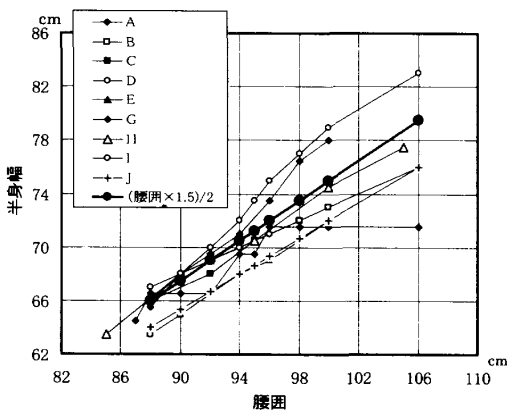


図 11 各種文献における半身幅と腰囲との関係

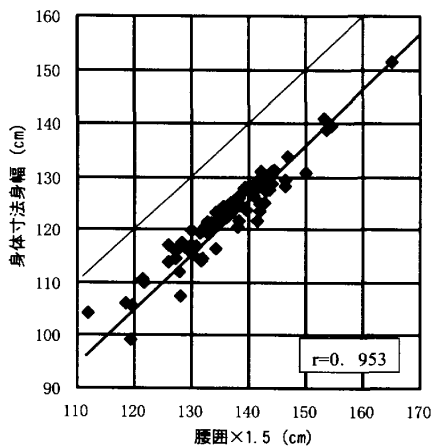


図 12 「腰囲の 1.5 倍」の長さとの関係

3. 4 若年用既製和服長着のサイズ

以上の考察から若年女子用和服長着の衣料サイズは、丈だけでなく幅も考慮される必要が明かであるので、身丈と身幅でサイズ設定されるとよいと考える。しかし、消費者が長着を購入する際に身丈や身幅はわかりにくい寸法であるため、衣料サイズとしてはそれに替わる身体寸法で表示するとよい。和服は着装時に融通が利くという点も考慮すると、図 13 のように身長と腰囲を基本身体寸法として、丈方向に少なくとも S、M、L の 3 サイズ、M サイズについてはさらに幅方向に 3 サイズ程度のサイズ展開が必要と考える。

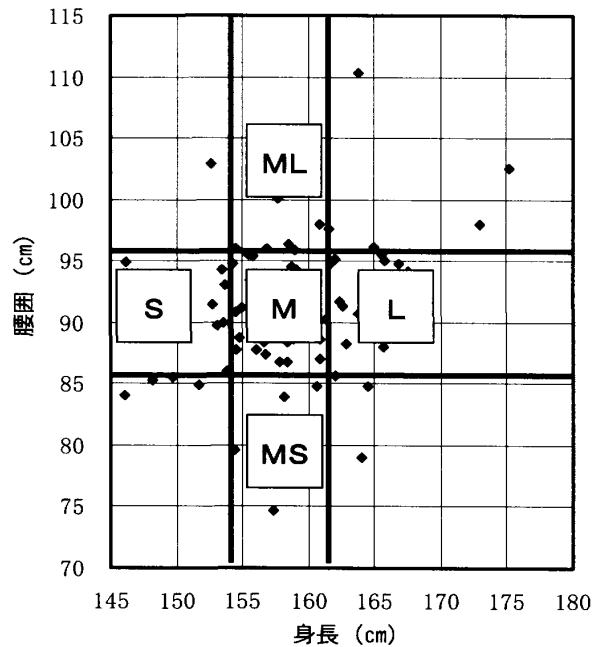


図 13 既製和服長着の提案サイズ

4. 総括

既製浴衣が市場に多く出回るようになったにもかかわらず、和服のサイズは JIS 衣料サイズの対象外とされ、公的サイズは決められていない。そこでまず既製浴衣のサイズと寸法について実態を調べ、身体計測値からサイズや寸法の妥当性を検討し、既製和服長着のサイズ提案を試みた。資料は 2006 年 6 月 ~ 8 月に実施した市場調査資料と、2004 年 ~ 2006 年に実施した三次元計測値から得られた計測値及び断面図と計測身長を使用した。主な結果は以下のである。

- 1) 調査した 22 ブランドの既製浴衣のサイズは、3 ブランドを除き、19 ブランドが M サイズのみであった。市場の浴衣サイズはほとんどが M サイズで

あると予測される。

- 2) 寸法表示は身丈、衿丈、袖丈のみで幅方向の表示は皆無であった。また身丈は現在の若年女性に対して必要以上に大きな値に設定されていた。
- 3) 身長と腰囲の散布図からは、丈と幅でサイズを設定する必要性が示された。
- 4) 身幅のサイズは腰部の相対的な厚みと形状によって変化させる必要がある。
- 5) 身幅の寸法設定は、腰部のゆとりを10cmと考えた場合、標準体型では(腰囲×1.5)から3～4cmを、腰部に厚みのある体型では(腰囲×1.5)から4～5cm減じた値とするといふ。

和服はサイズに関係なく着装できるという考え方が定着しているが、それには限度がある。長すぎる身丈、広すぎる身幅は着心地を悪くし、着装も困難にする。現状ではサイズ数が不足し、寸法的にも適合していないと考えられる。身長を中心としたサイズ設定に腰囲の寸法を加えサイズ数を増やすことで、より着やすく、体型に合った和服が提供できると考える。

引用文献

- 1) JIS L 4005 成人女子用衣料のサイズ, 日本規格協会, (2001)
- 2) 通産省工業技術院, (財)日本規格協会, JIS 衣料サイズ推進協議会: 日本人の体格調査報告書—既製衣料の寸法基準作成のための—, (財)日本規格協会, (1984)
- 3) 木野内清子他: 基礎きもの, p.37～p.43, 株式会社白水社, (1980)
- 4) 横山千年枝: 和服寸法百科, p.37, ふたば書房, (1994)
- 5) 柳澤澄子編著: 被服構成学, p.125～p.126, 光生館, (1981)
- 6) 柳澤澄子編著: 被服構成学実験, p.163, 産業図書, (1977)
- 7) 吉田花美: 新しい和裁教室, p.45, 創元社, (1970)
- 8) 西村文子: 和裁精義(上巻), p.24, 創英社/三省堂書店, (2000)
- 9) 熊田知恵他: 和裁—平面構成の基礎と実際—, p.129, 衣生活研究会, (1987)
- 10) 石田はる: 和裁, p.118, 主婦の友社, (1973)